

みらい図書だより

No.5 (2017.11)

発行：東京未来大学図書館

〒120-0023 東京都足立区千住曙町 34-12 TEL：03-5813-2540 (内線 1202) FAX：03-5813-2529
URL：http://www.tokyoumirai.ac.jp//library/ 印刷：上武印刷株式会社

図書館と私

こども心理学部 こども保育・教育専攻長 竹内 貞一

私の生家の隣には市立図書館があり、幼少期、私は気に入った絵本を次々に引っ張り出しては眺めていました。中でもお気に入り「汽車のえほん」（機関車トーマス）シリーズ。他にもたくさんのお本を、母は私に読み聞かせてくれました。この経験は私の人格形成に少なからず影響を与えていると思います。

その図書館は、様々な遊びや体験の一部として私の日常に組み込まれていました。小学生の頃、雑木林の中で見つけた名前がわからない草花を图鉴で調べ、捕まえた虫の飼育方法を調べ、野球のルールを調べ、工作の方法を調べ…。今のようインターネットのない時代、調べたいことがあれば、まずは本を読む必要がありました。疑問や興味が湧いた時、すぐ隣に図書館があった環境は、とても恵まれていたと思います。

大学時代、一般教育科目「地理学」のレポート課題は、居住地が含まれる地形図を入手し、そこに記された地名の由来を調べることに。図書館で初めて地元の地誌を手にとり、地名の由来や変遷などを辿りました。地誌は禁帯出資料だったため、

何日も閲覧室に通って地元の歴史や地形との関連などを相当深く調べたのは良い思い出です。地元への愛着も高まりました。ベテラン司書さんは、「絵本」を読んでいた私が「地誌」を請求するようになったと、それは感慨深げに言われました。

大学院での音楽教育研究が終わりにさしかかったある日、大学附属図書館で運命的な論文に出会いました。それは漠然とした興味から手に取った心理学系の論文集に掲載された、音楽と人格と感性を絡めた実証的研究でした。私はその著者、富田正利先生の下で学びたいと強く思い、その日のうちに先生に手紙を書きました。全く別の大学・大学院で学んだ私を、先生は快く研究室に受け入れてくださり、後に大学院へ入学。今につながる音楽心理学研究の機会が得られました。もしあの日、図書館に行かなかったら、そしてあのページに目を止めなかったら、今の私はない。とても不思議です。

おわりに、私は今も市立図書館の近隣に住んでいます。私の息子や娘も、その図書館に足を運びたいとたくさん本に触れています。私も母と同じように子ども達に本の読み聞かせをしています。図書館が世代を繋いでくれているようです。



図書館の未来（東京未来大学今昔物語その4）

モチベーション行動科学部 金塚 基

本学に奉職して早11年目となりますが、その間、大地震による被災や本学施設の停電によるサーバーの停止などさまざまな被害を認識して参りました。

しかし、そのなかにおきましても本学図書館は比較的安定した竹林に囲まれた環境にあり、静寂を保ってきたといえると思います。それはひとえに本学関係者や歴代の図書委員の方々のご尽力によるものといえるのではないのでしょうか。

ところが、そんな本学図書館にも唯一大きな物理的環境変化が以前に起きていたことを知る人は、今ではマイノリティー（少数派）になっているのですが、あるのです。本学図書館は、実は今よりも広がったのです。面積としては14平方メートルほど勝手に解釈いたしますが、全体のスペースに占める割合から算出すれば結構な面積です。事務局（現総務部）が手狭になった都合上、図書館スペースを削減したという流れのリフォームだったと記憶しております。

当時も研究者のはしくれである私は一抹の不安を感じましたが、その後現在まで数年間にわたって図書館をどのように

利用させていただいたかと振り返れば、授業のネタに困ったときのDVD借入、ならびに雑誌論文のレファレンスサービス以外ほとんど利用したことがないのが実情です（たいへん助けていただきましたのでこの場で御礼申し上げます）。

多分、近年、私だけでなく電子資料の利用頻度が高められており、以前のような実物蔵書のみで囲まれて資料閲覧をする利用者は学生を含めて益々低下していく傾向は否めません。ただでさえ重たい本は北千住に向かう混雑した車内で怖そうなおじさんの顔にぶつかったりしてトラブルの元にもなりかねないからです（以前危険な状況に追い込まれました）。

以上、図書館のスペースが削減された当初感じた不安は、今になってみると杞憂だったような気がします。物理的な環境だけが図書館の機能を支えるのではなく、今後の電子化された資料閲覧の機能に期待させていただくことこそ私たちが求める本学図書館のもうひとつのあり方ではないかと感じている次第です。

司書のつぶやき

図書館司書 伊藤結美

2017年4月にオープンしたばかりの「太田市美術館・図書館」(群馬県)に行ってきました。

美術館、図書館、カフェなどを併設した、太田駅前の新たなランドマーク的複合施設で、「創造的太田人」をコンセプトに、柔軟な感性と広い知識を育てる場を提供しています。

建物は、建築家・平田晃久さんと市民のワークショップによって生まれた設計です。施設をぐるりと回る螺旋状のスロープなど、限られた敷地を最大限に生かすための工夫がされており、公共施設とは思えないくらいおしゃれな空間でした。最初は迷路のようでしたが…。テラスや屋上には緑もあり、天気の良い日はオープンエアで読書ができます。また、館内のサインやロゴ、家具も個性的でとても魅力的でした。

この図書館の最大の特徴は、60カ国以上から集められた10,000冊以上もの絵本・児童書と、9,000冊以上のアートブックです。「絵本・児童書コーナー」には、靴を脱いで上がるプレイルームのようなエリアがあり、子ども部屋のような可愛い空間で、子どもたちが夢中で本を読んでいます。「アートブックコーナー」では、美術館で展示を観た後に、気になったこと、感じたことなどをすぐに調べることができるのも魅力です。

先述しました螺旋部分はガラス張りになっていて「学びの道」と称され、一般書・専門書などが並んでいました。外を眺めながら本を読んだり勉強したりできる机があったり、階段にはクッションが置かれていてくつろぎながら読

書できる空間になっていました。

1階にはカフェもあり、地産地消をモットーにコーヒーやホットサンドなどが提供されています。中でもソフトクリームが美味しいらしいです！（私は食べられませんでした…）コーヒーを飲みながらブラウジングコーナーで雑誌などを読むこともできます。

施設内にある視聴覚ホールやイベントスペースでは、映画の上映や寄席、ワークショップなどが催されているそうです。また、太田市内35施設が参加する「まちじゅう図書館」も展開されています。市内の商店や事務所、個人宅にある本で、小さな図書館がつくられています。太田の街歩きとして楽しめそうです。

お近くに行かれることがありましたら、是非寄ってみてください。



ライフステージごとの「一冊」

思い出の本・忘れられない本

東京未来大学の先生方ご自身が人生の節目、節目で影響を受けた本、思い出に残る本を紹介します。

- ①私の10代（少年期）の一冊
- ②私の20代（青年期）の一冊
- ③私の30代（壮年期）の一冊

●鈴木 公啓先生（こども心理学部）

①『春と修羅』宮沢賢治

小学生のころ、彼の作品をずいぶん読み漁りました。一番感じるものがあったのが、この作品でしょうか。

②『ドグラ・マグラ』夢野久作

内容がどうのというよりも、学生時代の仲間内で流行っていたという点で印象に残っています。

③『百鬼夜行絵巻の謎』小松和彦

ある絵巻の発見により、いわゆる百鬼夜行絵巻の成立と系譜についての定説が覆されました。そのプロセスが、分野は違えど研究者としては興奮しました。

●泉 秀生先生（こども心理学部）

①『五体不満足』乙武洋匡

表紙に衝撃を受け、読んでみても衝撃を受けた書物。彼の人生には、今もお衝撃を受け続けています。

②『ノルウェイの森』村上春樹

ミーハーな心で手にとった、世界的に有名な日本人作家の書物。スケベな印象しかもてない自分がかっかりした本。

③『働き方革命』駒崎弘樹

自身の研究、仕事、プライベートに、信念と疑念の両方を与えてくれた1冊。ワーク・ライフ・バランスは大切。



おすすめの一冊＋α

こども心理学部 こども心理副専攻長 須田 誠

小説『桜の森の満開の下』 坂口安吾

戯曲『贗作・桜の森の満開の下』 野田秀樹

映画『桜の森の満開の下』

篠田正浩 監督、若山富三郎・岩下志麻 主演

演劇『贗作・桜の森の満開の下』 劇団 夢の遊眠社

アニメ『桜の森の満開の下』

荒木哲郎 監督、堺雅人・水樹奈々 声

2017年、歌舞伎座の『八月納涼歌舞伎』の第3部公演後、異例の出来事が起こりました。8月9日の初日で3回のカーテンコール、8月26日の千鶴楽では実に6回ものカーテンコールがあったのです。通常、歌舞伎ではカーテンコールはありません。緞帳が下りれば、観客はそれぞれの想いを抱きつつ、サッサと席を後にします。

この第3部は劇作家・演出家の野田秀樹による『野田版歌舞伎 桜の森の満開の下』でした。これは野田秀樹が主宰していた「劇団 夢の遊眠社」の代表作で、元々は歌舞伎ではない演劇ですが、野田秀樹は盟友の故 18代目中村勘三郎と、「いつか」、これを歌舞伎として上演する約束をしていました。しかし、勘三郎は2012年に惜しまれながらこの世を去り、「いつか」は来ませんでした。野田秀樹の喪失感は尋常ではなかったそうですが、意を決し、勘三郎へのオマージュとして2017年初めに『足跡姫』（宮沢りえ・妻夫木聡・古田新太 主演）を作・演出し、謎の憑依型幽霊：足跡姫と女歌舞伎の筋書き：猿若勘三郎（初代中村勘三郎の異名です）の反骨心を通して「肉体を使う芸術。残ることのない形態の芸術（つまり役者そのもの）」を描き、大成功しました。3カ月にもわたる公演でしたが、全公演、立ち見がでる大盛況だったのです。そして、満を持して、中村屋の跡取りを主演に据えての『野田版歌舞伎 桜の森の満開の下』の上演となりました。

坂口安吾の短編小説『桜の森の満開の下』と『夜長姫と耳男』をモチーフ（贗作）に、人と鬼が共存していた時代の国盗り・国造りの物語です。恐らく壬申の乱を描いているのですが、野田秀樹が得意とする時空間を超えた多層構造になっているので特定はできません。また、鬼は妖怪ですが、反体制者（反骨心を持つ者）のメタファーでしょう。鬼が見え、人が死ぬことを喜びとする夜長姫に魅せられた飛騨の匠：耳男が、姫の誕生日に化物像を献上したとき、丑寅のほうより鬼どもが参ります。姫は「人がキリキリ舞いをして（死んで）いるわ」と狂喜します。「この姫さまを殺さなければ、チャチな人間世界はもたない」と悟った耳男は姫を殺めますが、姫は「愛するものは呪うか殺すか争うかしなければならないものよ」と耳男を赦します。

エンディング、桜の森の満開の下、人の葬列と鬼の葬列がクロスしたとき、感極まった観客がスタンディングオーバーションをしました。1階から3階までまさに総立ちで、リニューアルした歌舞伎座初の出来事です。因みに、故 18代目中村勘三郎は『野田版歌舞伎 研辰の討たれ』で旧歌舞伎座初のスタンディングオーバーションを受けています。野田秀樹と中村屋親子は史上初の出来事を起こしたのです。

坂口安吾の『桜の森の満開の下』は実写映画化・アニメ化もされています。情報、殊に文化の情報はオープン・システムです。これを読んだ学生さん、あなたの好きなことが何であれ、そこからリンク先を広げてください。例えば、サカナクションは歌人の寺山修司を尊敬しています。もし、あなたがサカナクションを好きならば、寺山修司の世界にも触れてみるべきです。



● 小林 寛子先生 (モチベーション行動科学部)

①『そして誰もいなくなった』 アガサ・クリスティー
推理小説にはまるきっかけになりました。衝撃的なラスト、童謡に見立てて起こる事件にゾクゾクする怖さがあります。

②『Exploring Science』 David Klahr
科学的思考のプロセスを心理学実験で明らかにしています。研究のおもしろさと手法を教えてくださいました。大切な一冊です。

③『言葉屋 言箱と言珠のひみつ』 久米絵美里
小学生の娘に薦められて読んでいたシリーズ本の一巻です。言葉を丁寧に使っていきたいと思える一冊です。

● 大熊 沙織先生 (エンロールメント・マネジメント局)

①『世界の中心で愛を叫ぶ』 片山恭一
セカチューブームとして社会現象になった作品。10代の学生の悲しくも美しい純粋な恋愛に涙なくしては読めない一冊。

②『夢をかなえるゾウ』 水野敬也
考え方や行動が変わる本。物語形式で読みやすく、はつとするような核心をつく名言があふれています。

③『ツナグ』 辻村深月
吉川英治文学新人賞を受賞、映画化した作品。正義とは何か葛藤しながらも自分なりの答えを出す、成長と葛藤の物語。

